中日ニュース
シネスコ版

喜劇 no 334
外警婦 no 163
中国 no 176
ナシの出荷はじまる
鳥取・郷 84呎 トップへ

No. 500

38. 8. 16

五〇〇号記念特集

国境の周辺

——ハボマイ諸島
——李ライン
——沖縄

ハボマイ諸島

戦後十八年、複雑な国際情勢の中にあって、わが国は常に大きくゆれ動いてきた。特に国境の周辺。それは東西両陣営の谷間として、そこに住む者の生活をおびやかしてきたのである。いわば、彼等は複雑な国際情勢の犠牲者ともいえるのではないだろうか。

北海道の東端、根室半島に連らなるハボマイ諸島、日本領か、ソ連領か紛争の島々をはさんで日本はソ連と接している。そこには長年の念願かなつて、今年はコンブ漁に関する日ソ協定が成立、ハボマイ諸島へ出漁することが漸く可能となった。

昨年までは無協定のまま日本漁船が強行出漁したため、ソ連側は監視艇を出動させた。そして多くの不幸な事件があい次いで起ったのであった。だが乏しい資源に悩む漁民にたちにとって、力一杯働けるが日ようやくやって来たのだ。しかし、こうした矢先き早くも大漁貧乏の噂がたちはじめている。領土問題の内側にかくれていた沿岸漁業対策の貧しさが改めて明るみにでてきたのであった。今年は幸か不幸か、不漁に救われたものの漁民たちは新たな試練を迎えようとしている。

李ライン

それは国際慣行をまったく無視して一方的に作られた国境線である。この不当なる国境線の内側が格好の漁場でもあるため、西日本の漁民たちは、危険を承知で強行出漁を続けているのだ。そこでは、韓国警備艇の動きを気にしながら、三百隻をこえる漁船団が恐怖の操業を続けている。そして、今日も、危険水域の中でだ捕の危険をかけた恐怖の作業が続くのだ。李ラインを南下すると、今度は横に走る国境線、北緯二十七度そのさきは沖縄である。

沖縄

それは、ダレスの考えに始まったアメリカの反共戦略基地である。全島は、核兵器で武装され、島の中に基地がある、というより、基地の中に島があるといわれるくらい、島は基地でおおわれている。基地の存在は、戦争の恐怖に結びつくが、島の人たちにとつて基地はまた生活のよりどころでもある。それというのも沖縄は資源に乏しく、かっては世界のイトマンと謳われた独特の漁業もいまはすっかりさびれている。その上、土地は狭く、産業といえば、僅かにサトウキビとパイナップルぐらいなもの。しかもそれが農業のすべてでもあるのだ。それ故に、沖縄は、一切合財を輸入にまたなければならない。このため沖縄は、一日一億円の赤字に悩んでいる。物価は東京の一・四倍。その生活はとても本土の比ではない。そうした反面、繁栄を謳歌する那覇。こうして沖縄の日々は、貧富の隔だたりを大きく見せて、基地に明け、基地に暮れているのである。そこには国境の周辺なるが故に背負わねければならない多くの問題があるのだ。

724呎

製作配給 東京中日新聞 中部日本ニュース映画社